

## 問 利用率をどう捉えるか

答 現状で妥当



西元和代

## 一般質問

西元

福祉タクシー券の利用率をどう捉えるか。1月に町内の機関や団体に協力を依頼して以降、動きの見られない障がい者の外出支援にもっと重点を置いてはどうか。

津野西庁住民福祉課長

福祉タクシー券の受け取り率50%は高いと思う。今後も年2回、広報で周知徹底を行う。利用に関しても高齢者の福祉の増進・社会参加の幅を広げる主旨に基づくと、現状のままで妥当と考える。障がい者の外出支援に関しては、計画後の実行や見直しに繋がられていなかった。今後、誰もが暮らしやすい町づくりのために取り組んでいきたい。

問 カートリッジのリサイクル活動への参加を

答 進めていきたい

西元

企業が地域と共同で行う使用済みインクカートリッジのリサイクル活動がある。環境保全と資源の有効活用のため町として、又は津野町の学校として取り組んではどうか。

戸田産業建設課長

近隣4市町の郵便局にて対応されている。情報を収集し、頻度等の調査をしながら対応を進めていきたい。川上教育長

町が不可でも学校としては前向きに取り組むべきと考える。



インクカートリッジ

西元

地方創生に向け、もっと子どもの視点を取り入れるべき。また、地元愛を育み次世代へと繋ぐためにも、子ども観光大使の取り組みや中学生によるクラウドファンディング等を推進してはどうか。

岡崎企画調整課長

総合戦略では津野町の魅力を発見し、町外へ情報発信できる人材育成を目的とした津野山学がある。地元愛着意識の高揚を推進することが次世代を担う子ども達の育成でもある。子ども観光大使と相通するので協力を願いたい。具体策はこれから地方総合戦略のワーキングチーム等で考えるが子ども達によるクラウドファンディングへの取り組みはいいことだと思っているので参考にしたい。

※クラウドファンディングとは不特定多数の人が通常インターネット経由で他の人々や組織に財源の提供や協力などを行うこと。群衆と資金調達を組み合わせた造語。

問 子ども観光大使の取り組みを  
答 津野山学の中で工夫